

タイの新しい Admissions 方式大学入試と日本語を受験科目に指定した大学専攻 ——2007 年の『高等教育機関入学選抜』（統一入試）の事例を中心に——

海老原 智治

1. 目的と背景

本稿は、タイの大学入試制度に関する情報を必要とする日本人日本語教員間の教育実務知識の共有を意図して、タイ政府が全国一斉に実施する大学入試で、2006 年より制度と実施方式が大きく変更された「高等教育機関入学選抜」(การคัดเลือกบุคคลเข้าศึกษาในสถาบันอุดมศึกษา) [以下「統一入試⁽¹⁾」と略記] の概要と日本語の受験科目への指定状況を、2007 年の事例を中心にタイ語 1 次資料に依拠しデータとして提示することを目的とする。

統一入試は 2006 年に大きな改革が行われた。2005 年までの「Entrance 方式」(ระบบ Entrance) の、「Admissions 方式」(ระบบ Admissions) への変更である。本稿では、この移行及び移行後の試験科目としての日本語の位置づけに関して、海老原 (2005) で述べた「Entrance 方式」による 2004 年の事例とも比較し詳述する。紙幅が限られており、統一入試の沿革・応募資格・「Entrance 方式」の詳細等については触れる余裕がない。海老原 (2005) を参照されたい。

本稿ではタイの学士課程以上を設置する高等教育機関を「大学」と呼ぶ。種別名は、マハーウィッタヤーライ (มหาวิทยาลัย) を “Univ.”、サターバン (สถาบัน) を “Institute”、ウィッタヤーライ (วิทยาลัย) を “College” とする。但し、マハーウィッタヤーライのうちラーチャパット (ราชภัฏ) とラーチャモンコン (ราชมงคล) は Univ. に含めずに、タイ語名称をそのまま種別名とする。

2. タイの大学入試

タイ語資料に明確な分類や定義は見つからないが、筆者の理解では、タイの大学入試は表 1 のように大別されるようである。

表 1 タイの大学入試の大別 (筆者の理解による)

1. 統一入試	参加各大学共通の入試。タイ政府が全国一斉に実施。
2. 直接入試	個別大学の入試。各大学が独自・個別に実施。
2.1 一般入試	基本的な応募資格を満たせば誰でも受験できる。
2.2 クォーター入試	基本的な応募資格の他に、各大学が定める特定条件 [居住地・指定校・スポーツで秀でた実績を有する者等] を満たす者のみが受験できる。

本稿以下では、統一入試を中心に取り上げることにする。直接入試については、統一入試との定員比率に関してのみ第 6 章で言及する。

3. 統一入試の「Admissions」方式への移行

筆者の知るところでは、タイでは 2000 年頃から統一入試の制度と実施方式を大きく見直す議論

と作業が行われてきた。これは内閣府をはじめ、教育省、タイ国会上下院の常設委員会である教育委員会 (คณะกรรมการการศึกษา)、全国大学長会議 (ที่ประชุมอธิการบดีแห่งประเทศไทย) などで行われてきたが、2005 年 5 月には新方式のほぼ全容と 2006 年からの導入が確定して広く報道されるに至り、2006 年の入試から実際に導入された。

新方式の大きな骨子は、「入試判定に中等教育後期課程の平均成績点を重視することにより、これまでほぼ学力試験のみだった競争的な入試制度を変更する」(「中央方式高等教育機関入学者受入制度 (教育省高等教育委員会中央試験局 2006) 」) というものである。

統一入試の見直し議論の中で、2005 年までの旧方式は「Entrance 方式」と呼ばれ、2006 年以降の新方式は「Admissions 方式」(正式には 中央方式高等教育機関入学者受入制度 การรับบุคคลเข้าศึกษาในสถาบันอุดมศึกษาในระบบกลาง Central University Admissions System /CUAS) と呼ばれる。本稿でもこの用法に従うことにする。以下 3.3 までは特に断らない限り、前掲の「中央方式高等教育機関入学者受入制度」(2006) に依拠し解説する。

3.1 入試改革の背景と方向

3.1.1 改革の背景

入試改革の背景として、それまでの Entrance 方式の問題として次が挙げられている。

- (ア) 学力判定は、大学専攻が指定した特定少数の科目を試験するだけであり、これが中等教育後期課程の生徒の間に、学校では試験に課される科目だけを学習すればよいという風潮を生んでいる。そしてこれが、中等教育後期課程の教育システムをゆがめている。
- (イ) 比較的優秀な生徒とその保護者には、飛び級試験を受けて入試に必要な科目を学習するだけで早めに大学に入学しようとする風潮を生んでいる。飛び級者は中等教育後期課程の学習が十分ではないばかりでなく、大学卒業後に職業に就くに当たっても適正な年齢に達していないことによる問題を生んでいる。
- (ウ) 大学入学のみを目的とした塾産業の膨張を生み、中等教育後期課程での学習目的を大学入学だけだと見なす傾向を一層助長している。
- (エ) 学力試験は 10 月と 3 月に実施されるが、10 月はまだ中等第 6 学年の年度半ばであり、10 月に実施することが中等教育後期課程に大きな弊害を生んでいる。

3.1.2 改革の方向

Entrance 方式の上記の問題を解決するために、Admissions 方式は次の方向を目指すとする。

- (ア) 中等教育後期課程の生徒が、同課程カリキュラムを満遍なく学習することを促進する。
- (イ) このために、中等教育後期課程 3 年間の成績を高い重み付けで入試判定材料に導入する。
- (ウ) これにより、生徒が中等教育後期課程のすべての科目の学習に関心を向けるようにする。

3.2 Entrance 方式から Admissions 方式への移行に伴う主な変更点

3.2.1 変更点

主な変更点は次の通りである。

- (ア) 入学合否判定の材料に、「学力試験成績点」と「中等教育後期課程成績平均点」の双方を用い、前者の重み付けは Entrance 方式の 90% から 70% に引き下げる。一方、後者の重み付けは 10% から 30% に引き上げる。この重み付けは 2006-2009 年の当初 4 年間適用する。
- (イ) 中等教育後期課程成績平均点には、GPA ⁽²⁾ と GPAX ⁽³⁾ の 2 種類を導入する。
- (ウ) 学力試験の設定試験科目数は削減する。
- (エ) 学力試験には新たに Ordinary National Education Test (O-NET/การสอบแบบทดสอบทางการศึกษาแห่งชาติขั้นพื้นฐาน)、Advanced National Education Test (A-NET/การสอบแบบทดสอบทางการศึกษาแห่งชาติขั้นสูง)、専門科目 (วิชาเฉพาะ) の 3 種類を導入する。
1. O-NET は基礎教育課程 (หลักสูตรการศึกษาขั้นพื้นฐาน Basic Education) [初等教育第 1 学年から中等教育第 6 学年までの 12 年間] のそれぞれ初等第 3 学年・同第 6 学年・中等第 3 学年・同第 6 学年に在籍する児童生徒を対象に導入する全国一斉の学力水準テストとし、中等第 6 学年の成績を大学入試にも利用する。試験科目はタイ語・社会・数学・理科・英語の 5 科目のみとする。
 2. A-NET は大学入学のためにより高度な専門的知識 (思考方法・分析力) を検査する学力試験で、設定科目は O-NET と全く同じ 5 科目だが試験の観点と内容が異なる。
 3. 専門科目は全 17 科目の設定とし、外国語科目 (วิชาภาษาต่างประเทศ) 6 科目 (仏・独・アラビア・パーリ・中・日) と習熟科目 (วิชานัด) 11 科目 ⁽⁴⁾ とする。
- (オ) A-NET と専門科目の受験科目への指定は、各大学専攻の任意とする。指定する場合は両者から合計 3 科目以内とする。全く指定しなくてもよい。
- (カ) 学力試験の実施はそれぞれ年 1 回とする。専門科目は 10 月、O-NET と A-NET は 2 月以降とする。但し、専門科目のうち外国語科目の試験は A-NET と同時に行う。
- (キ) 実際の受験科目は、O-NET は全 5 科目である。A-NET と専門科目は応募予定の大学専攻が指定する試験科目を念頭に、必要な科目名を事前に申し込んで受験する。
- 上記の変更点とその他のいくつかの項目を合わせて、Entrance 方式と Admissions 方式を対応表にすると、次のようになる。

表 2 Entrance 方式から Admissions 方式への移行に伴う主な変更点

変更点	Entrance 方式	Admissions 方式
①試験実施機関	高等教育委員会 ⁽⁵⁾	・国家教育試験インスティテュート ⁽⁶⁾ (O-NET) ・高等教育委員会 (A-NET 及び専門科目)
②学力試験の年間実施回数	年 2 回	O-NET・A-NET・専門科目それぞれ年 1 回
③学力試験の科目	高等教育委員会が設定する 36 科目のうちから各大学専攻が指定。	・O-NET は 5 科目。 ・A-NET (5 科目) と専門科目 (17 科目) は各大学専攻が必要により合計 3 科目以内を指定。
④合否判定基準と重み付け		・学力試験成績点 O-NET 35-70%

	・学力試験成績点 90% ・PR ⁽⁷⁾ 5% ・GPA 5%	A-NET/専門科目 0-35% ・GPAX 10% ・GPA 20%
⑤日本語科目	基礎科目に設定	専門科目に設定

出所：「中央制国立 Univ.入学者受入基準の要約」（2005）と「中央方式高等教育機関入学者受入制度」（2006）を基に筆者が作成。

3.2.2 Admissions 方式の合否判定基準の詳細

Admissions 方式の合否判定基準の詳細は表 3 の通りである。

表 3 Admissions 方式の合否判定基準の詳細

	成績の種別	重み付け	内訳
中等教育後 期課程の成 績平均点	①GPAX（6 学期間 [3 年間] の全学習領域平均成績点）	30%	10%
	②GPA（8 学習領域のうち 3-5 学習領域の平均成績点）		20%
学力試験成 績点	③O-NET（Ordinary National Education Test） [タイ語・数学・理科・社会・英語]	70%	35-70%
	④A-NET（Advanced National Education Test） [タイ語 2・数学 2・理科 2・社会 2・英語 2]		0-35%
	⑤ 専門科目		
	④⑤の中から各大学専攻が 3 科目以内を指定。指定しなくとも可。		
	合 計	100%	100%

出所：「中央方式高等教育機関入学者受入制度」（2006）を基に筆者が要約し作成。

学力試験科目指定事例として、表 4 にチュラーロンコーン大学文学部日本語専攻の例を示す。

O-NET は必ず全 5 科目を受験せねばならないが、入試判定材料にどの科目をどのような重み付けで採用するかは各大学専攻の裁量となっている。

表 4 2007 年統一入試でのチュラーロンコーン大学文学部日本語専攻の試験科目の指定

学力試験（70%）										中等後期課程 成績点（30%）	
O-NET（35-70%）						A-NET/専門科目（0-35%）				GPA	GPAX
タイ 語	社 会	英 語	数 学	理 科	（合 計）	タイ 語 2	英 語 2	日 本 語	（合 計）		
10%	10%	15%	-	-	(35%)	10%	10%	15%	(35%)	20%	10%

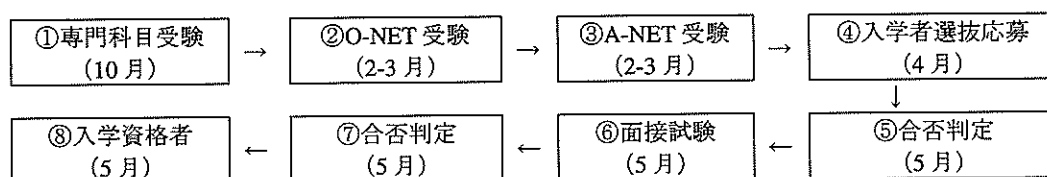
出所：『仏暦 2550 教育年度高等教育委員会高等教育機関入学者選抜規則』（2007）P.10 から改変。

3.3 Admissions 方式での日本語の位置づけ

日本語は英語以外の外国語等と共に「専門科目」に設定されている。A-NET と専門科目からの受験科目の指定（一方または両者から合計 0～3 科目）は、各大学専攻の任意であるため、日本語は個別の大学専攻が「特に受験を指定した」場合にのみ課される。指定には必須受験科目にする形と、他科目との間で選択科目とする形があるが、いずれにするかは各大学専攻の任意である。

3.4 Admissions 方式統一入試の応募の流れ

Admissions 方式統一入試はおおよそ図 1 の流れからなる。



※「専門科目」のうち日本語を含む外国語科目の試験は A-NET と同時に実施。

出所：『仏暦 2550 教育年度高等教育委員会高等教育機関入学選抜規則』（2007）を基に筆者が作成。

図 1 Admissions 方式による高等教育機関入学選抜試験（統一入試）のおよその流れ

入試の流れで重要なのは①～③の一連の学力試験の受験、④入学選抜応募、⑥面接試験の 3 段階である。但し、筆者が知る範囲では、面接試験は人物確認と言った意味合いが強く「選抜試験」としての役割は形式的なようである。

4. 2007 年の Admissions 方式統一入試の参加大学数と入学者数

表 5 に、2007 年の種別内訳ごとの設置大学数と、同年の統一入試参加大学数・大学ごとの募集定員・面接資格者数・入学資格者数・定員充足率を示す。種別内訳の分類は入試上の振る舞いの特徴から筆者が独自に行ったもので、教育省資料での一般的な分類とはいくつも異なっている。

表 5 2007 年の大学設置数と、2007 年統一入試に参加した大学の校数・

種別内訳・入学定員・面接資格者数・入学資格者数・入学定員充足率

管轄	設置	種別内訳	07 年 設置 校数	2007 年統一入試における				
				統一入試 参加校数	入学定員	面接資格者 数	入学資格者数	入学定員 充足率
教育省（高 等教育委 員会）	国立	旧大学庁管轄 Univ./Institute	24	21	57,278	58,836	47,030	82.10%
		ラーチャパット	40	13	14,399	3,976	2,310	16.04%
		ラーチャモンコン	9	8	7,414	4,694	3,556	47.96%
		2005 年以降高等教育 委員会に管轄移管さ れた Univ./Institute ⁽⁸⁾	3	1	140	13	11	7.86%
		最近新設の Univ. ⁽⁹⁾	2	0	0	0	0	—
	私立	Univ.	34	27	34,070	2,509	1,446	4.24%
		College	29	13	6,090	180	86	1.41%
		Institute	5	0	0	0	0	—
教育省外	国立	赤十字看護 College/警 察看護 College/クアカ ールン看護 College	—	3	266	276	142	53.58%
合 計（平均）			84 校	86 校	119,675 人	70,484 人	54,581 人	(45.60%)

出所：『仏暦 2550 教育年度高等教育委員会高等教育機関入学選抜データ』（2007）P.4-6 及び「管轄高等教育機関」（2007）を基に筆者が作成。入学定員充足率は筆者が計算し追加。

表 5 から、2007 年の統一入試による入学定員充足率は旧大学庁管轄国立 Univ./Institute 21 校以外の種別内訳では著しく低いことがわかる。これは、これら 21 校（及び教育省管轄外国立大学）以外の大学は、そもそも統一入試では受験者がほとんど応募しないことを意味している。理由は、ラーチャパットや私大の大多数の専攻は入試が形式的で全員入学に近いという実態があり、統一入試であえて応募する必要性が低いからである。

このように、統一入試は事実上、旧大学庁管轄に由来する国立 Univ./Institute のための入試とい

う従来からの性格が維持されている。ラーチャパットや私大はきわめて周辺的である。

5. 2007 年の Admissions 方式統一入試での日本語の位置づけ

5.1 大学専攻全体の中の試験科目としての日本語の位置づけ

5.1.1 日本語を試験科目に指定した大学専攻

Admissions 方式による 2007 年の統一入試で日本語を試験科目に指定した大学数と専攻数は、筆者が前掲『仏暦 2550 教育年度高等教育委員会高等教育機関入学者選抜規則』から数えたところ、23 大学 77 専攻（内訳：旧大学庁管轄国立 Univ./Institute 15 校 67 専攻、ラーチャモンコン 1 校 3 専攻、ラーチャパット 0 校、私立 Univ. 7 校 7 専攻、私立 College 0 校）であった。日本語を指定した専攻の分野は文科系（人文科学・社会科学）のみであった。理系では指定がなかった。

なお、ここでの専攻とは統一入試の学生募集上の単位を言う。大多数は課程としての専攻に対応するが、なかには入試段階では学生の専攻課程を定めずに学部や学科として一括募集し、入学後に分かれるものもある（例：シラパコーン大学文学部は学部として学生募集し入学後に日本語やタイ語等の 14 専攻に分かれる）。この種はこれら全体を 1 専攻と見なして数えた。

上述の数値を海老原（2005）で挙げた Entrance 方式による 2004 年入試の数値と比較して示すと、表 6 の通りである。

表 6 統一入試参加大学数と日本語を入試科目に指定した大学数・専攻数（2004 年/2007 年）

管轄	設置	種別内訳	統一入試参加 大学数		日本語を指定し た大学数		日本語を指定 した専攻数	
			2004	2007	2004	2007	2004	2007
教育省（高 等教育委員 会）	国立	旧大学庁管轄 Univ./Institute	21	21	14	15	75	67
		ラーチャパット	5	13	0	0	0	0
		ラーチャモンコン	1	8	1	1	3	3
		2005 年以降高等教育委員会に管轄移 管された Univ./Institute	—	1	—	0	—	0
		最近新設の Univ.	—	0	—	0	—	0
	私立	Univ.	25	26	3	7	9	7
		College	24	14	1	0	1	0
		Institute	—	0	—	0	—	0
教育省外	国立	赤十字看護 College/警察看護 College/ バンコク都医科 College/クアカールン 看護 College	3 ⁽¹⁰⁾	3 ⁽¹¹⁾	0	0	0	0
合計			79 校	86 校	19 校	23 校	88 専攻	77 専攻

出所：『仏暦 2547 教育年度高等教育委員会高等教育機関入学者選抜規則』（2004）及び『仏暦 2550 教育年度高等教育委員会高等教育機関入学者選抜規則』（2007）を基に筆者が作成。

2007 年の統一入試参加校数は 2004 年から 7 校増加し 86 校で、入試に日本語を指定した校数も 4 校増加し 23 校となったが、日本語を指定した専攻数を見ると 11 専攻減って 77 専攻であった。

筆者の聞き及ぶところ、2006 年の Admissions 方式への移行の前には一部教員の間で「入試の中心が中等後期成績平均点と O-NET となれば日本語の受験指定が著しく減るのではないか」という予想があり、「それが中等教育日本語履修者減の要因になるのではないか」との懸念もあった。しかし、実際には上記のように、日本語を試験科目に指定した専攻数は Admissions 方式移行後も現

在のところ、わずかな変化にとどまっている。

5.1.2 日本語を試験科目に指定した大学専攻での日本語の位置づけ

2007年に日本語を指定した表6の77専攻における日本語の位置づけは、7専攻では必須科目としたが、残る70専攻は選択科目であった。2004年の数値と比較して示すと表7の通りである。

表7 統一入試で日本語を試験科目に指定した全専攻数・日本語必須科目とした

専攻数・日本語を選択科目とした専攻数（2004年/2007年）

	統一入試参加大学数	日本語を試験科目に指定した全専攻数	うち日本語を必須科目とした専攻数	うち日本語を選択科目とした専攻数
2004	79	88	1	87
2007	86	77	7	67

出所：『仏暦 2547 教育年度高等教育委員会高等教育機関入学者選抜規則』（2004）及び『仏暦 2550 教育年度高等教育委員会高等教育機関入学者選抜規則』（2007）を基に筆者が作成。

5.2 日本語専攻の試験科目としての日本語の位置づけ

2007年の統一入試で応募することができた日本語専攻は、全21大学24専攻あった。24の日本語専攻のうち半数の12専攻が日本語を試験科目のひとつに指定した。内訳は、6専攻が日本語を必須科目とし、もう6専攻が選択科目とした。残る半数の12専攻は日本語を試験科目に指定しなかった。これらの一覧を表8に示す。

表8 2007年の統一入試で応募できた日本語専攻と試験科目への日本語の指定の有無

大学 番号	専 攻 番 号	2007 年の統一入試で応募できた日本語専攻	種別内訳	試験科目に日本語を指定			備考
				あり		なし	
				必須	選択		
1	1	チュラーロンコーン 文学部 日本語学科	国立 Univ.	○			
2	2	カセートサート 人文学部 日本語学科	国立 Univ.	○			
3	3	コーンケン 教育学部 日本語教育学科	国立 Univ.	○			
	4	コーンケン 人文学部 日本語学科	国立 Univ.		○		
4	5	チェンマイ 人文学部 日本語学科	国立 Univ.		○		
5	6	タマサート 文学部 日本語学科	国立 Univ.	○			
6	7	ナレースワン ピサヌローク校 人文学部 日本語学科	国立 Univ.			○	
	8	ナレースワン パヤオ校 日本語学科	国立 Univ.			○	
7	9	ブーラーパー 人文社会学部 日本語学科	国立 Univ.		○		
	10	ブーラーパー 教育学部 日本語教育学科	国立 Univ.		○		
8	11	マハーサーラカーム 社会人文学部 日本語学科	国立 Univ.			○	
9	12	シーナカリンウィロート 人文学部 日本語学科	国立 Univ.	○			
10	13	シラパコーン 文学部 日本語学科	国立 Univ.		○		学部一 括募集
11	14	ソンクラナカリン 人文学部 日本語学科	国立 Univ.			○	
12	15	ウボンラーチャターニー 教養学部 日本語学科	国立 Univ.			○	
13	16	キングモンクット工科 ラートクラバン 産業教育学部 日本語学科	国立 Institute		○		
14	17	アユタヤー・ラーチャパット 人文社会学部 日本語学科	ラーチャ パット			○	
15	18	ピブーンソンクラーム・ラーチャパット 人文社会学部 日本語学科	ラーチャ パット			○	
16	19	バーンソムデットチャオブラヤー・ラーチャパット 人 文社会学部 日本語学科	ラーチャ パット			○	
17	20	スワンスナンター・ラーチャパット 人文社会学部 日 本語学科	ラーチャ パット			○	

18	21	パーヤップ 人文学部 日本語学科	私立 Univ.			○	
19	22	ファーイースタン 教養学部 ビジネス日本語学科	私立 Univ.	○			
20	23	ランシット 教養学部 日本語学科	私立 Univ.			○	
21	24	タイ商工会議所 人文学部 日本語学科	私立 Univ.			○	
合計：21 大学 / 24 専攻			6 専攻		6 専攻	12 専攻	
			12 専攻				

出所：『仏暦 2550 教育年度高等教育委員会高等教育機関入学者選抜規則』（2007）P.13-127 を基に筆者が作成。

大学種別ごとに見ると、旧大学庁管轄国立 Univ./Institute 13 大学に設置の 16 日本語専攻のうち、日本語を試験科目に指定したのは約 2/3 の 8 大学 10 専攻であった。一方、ラーチャパット 4 大学 4 専攻では指定はなかった。私立 Univ. 4 大学 4 専攻では 1 大学 1 専攻のみ指定した。

旧大学庁管轄国立 Univ./Institute 日本語専攻での日本語受験義務付けの動向は、「新入生の受け入れを中等教育で日本語を学んだ者のみに限定するかどうか」に繋がるため、今後も注目される。

6. 統一入試と直接入試の入学定員比率

第 2 章で述べたように、タイの大学入試には「統一入試」の他にも、各大学が個別・独自に実施する「直接入試」がある。入学定員はそれぞれの入試ごとに割り振られ、合算が当該大学全体の入学定員となる。そこで、入学定員配分上の統一入試と直接入試の比率を確認しておく。

私大やラーチャパットの直接入試の現状に関する網羅的なデータが入手できないため、ここでは一貫したデータが公開されている、旧大学庁管轄国立 Univ./Institute 21 校にのみ言及する。最近 5 年間の 21 校の入学者数・統一入試と直接入試の入学者数内訳・両入試の入学者比率の変化を表 9 に示す。

表 9 最近 5 年間の旧大学庁管轄国立 Univ./Institute 21 校入学者数に占める

統一入試と直接入試の入学者数と比率の変化

年	統一入試の方式	旧大学庁管轄国立 Univ./Institute 21 校入学者数	統一入試入学者数	直接入試入学者数	入学者比率	
					統一入試	直接入試
2003	Entrance	63,475 人	34,999 人	28,476 人	55.14%	44.86%
2004	Entrance	75,863 人	38,834 人	37,029 人	51.19%	48.81%
2005	Entrance	96,008 人	44,061 人	51,947 人	45.89%	54.11%
2006	Admissions	94,388 人	39,396 人	54,992 人	41.74%	58.26%
2007	Admissions	110,568 人	44,269 人	66,317 人	40.03%	59.97%
5 年間の増加率 (2003 年を 100% とする)		174.19%	126.46%	232.88%	-15.11%	+15.11%

出所：『高等教育委員会高等教育機関入学者選抜データ』（2003）（2004）（2005）（2006）（2007）の数値を基に筆者が作成。統一入試入学者比率と 5 年間の増加率は筆者が計算し追加。

表 9 から、2003 年を 100% とする 2007 年までの 5 年間の入学者数の変化で、直接入試入学者数の増加率は 2 倍以上の 232.88% にも上っていることが分かる。その結果、2007 年の統一入試と直接入試の入学者比率は、直接入試が 59.97% と半数を超え約 6 割を占めるに至っている。理由は、最近の国立 Univ./Institute 21 校の定員増は直接入試枠の拡大によりなされる傾向にあり、統一入試には割当枠を全く設定せず直接入試のみでしか学生募集を行わない新課程（例：チェンマイ大学

日本語学科夜間課程)の増設等が行われているためである。

しかし、大学ごとの定員比率は21校間で大きく異なっている。表10の出所文献が示す数字によると、2007年入試では、直接入試入学者の比率がもっとも低いカセートサート大学では22.46%でしかなかったが、最も高いコーンケン大学では80.78%に上っている。

7. 統一入試関連情報の参照方法

統一入試をフォローする方のために、タイ語基礎資料と基礎的情報ソースを紹介する。紙幅の都合から日本語名称のみ記すので、タイ語名称は参考文献から確認されたい。出版物は次の2点が最も基礎的で、継続して参照すると便利である。

1. 『教育省高等教育委員会高等教育機関入学者選抜規則』(教育省高等教育委員会) 各年版

毎年の統一入試の応募手引書。選抜日程や応募資格、統一入試参加大学と専攻ごとの定員や試験科目等が一覧できる。3～4月頃に発行される。

2. 『高等教育委員会高等教育機関入学者選抜データ』(教育省高等教育委員会高等教育機関入学者受入部) 各年版

毎年の統一入試実施結果の統計。8～10月頃に発行される。

入試に関する各種情報は、タイ教育省高等教育委員会本体のウェブサイト <http://www.mua.go.th/>、及び同委員会高等教育機関入学者受入部のウェブサイト <http://www.cuas.or.th/> を参照するとよい。

注

- (1) 「統一入試」は筆者の造語で、タイ語資料に相当する語はない。この入試の日本語の呼称は他の文献では「共通入試」「共通試験」「統一試験」等としているものがある。
- (2) ここで言う GPA (Grade Point Average) とは、中等後期課程3年間に学習する8学習領域のうち、3～5学習領域の平均成績を点数化したものである。
- (3) GPAX (Grade Point Average Extra) とは、中等後期課程3年間に学習する全学習領域の平均成績を点数化したものである。
- (4) 習熟科目は次の11科目。1.工学の習熟度 2.建築の習熟度 3.教員になるための適性 4.芸術の知識と習熟度 5.視覚美術理論 6.視覚美術実技 7.創造美術理論 8.創造美術実技 9.描線 10.美術構成 11.グラフィックデザインの習熟度
- (5) タイ語名・英語名は次の通り。สำนักงานคณะกรรมการอุดมศึกษา Commission on Higher Education
- (6) タイ語名・英語名/英語略称は次の通り。สถาบันทดสอบทางการศึกษาแห่งชาติ National Institute of Education Testing Service / NIETS
- (7) PR (Percentile Rank) とは在籍する中等後期校の同一学年の中で GPA が全体の成績分布のどこに位置するのかを統計的に求め、順位ランク帯によって点数を与えるものである。

- (8) 旧宗教教育局から移管されたマハーマクト Univ. とマハーチュラーロンコーン Univ. (いずれも仏教大学)、旧職業教育局から移管されたシーパトゥム工科 Institute の 3 校。シーパトゥム工科 Institute は統一入試にも参加している。
- (9) ナラーティワート・ラーチャナカリン Univ. とナコーンパノム Univ. (いずれも 2005 年新設) の 2 校。
- (10) 2004 年にはバンコク都医科 College が参加したが、警察看護 College の参加はなかった。一方、2007 年はこの逆であった。
- (11) 注 10 と同様。

参考文献

海老原智治 (2005) 「2004 年のタイ大学入試と日本語を受験科目に指定した大学専攻」『国際交流基金バンコク日本文化センター日本語教育紀要第 2 号』国際交流基金バンコク日本文化センター日本語教育紀要

กลุ่มรับบุคคลเข้าศึกษาในสถาบันอุดมศึกษา สำนักงานคณะกรรมการการอุดมศึกษา. ข้อมูลการคัดเลือกบุคคลเข้าศึกษาในสถาบันอุดมศึกษา สำนักงานคณะกรรมการการอุดมศึกษา. ปี 2549, 2550 [教育省高等教育委員会高等教育機関入学者受入部『高等教育委員会高等教育機関入学者選抜データ』2006-2007 年]

สำนักงานคณะกรรมการการอุดมศึกษา. (2004) ระเบียบการคัดเลือกบุคคลเข้าศึกษาในสถาบันอุดมศึกษา สำนักงานคณะกรรมการการอุดมศึกษา ปีการศึกษา 2547. [教育省高等教育委員会 (2004) 『仏暦 2547 教育年度高等教育委員会高等教育機関入学者選抜規則』]

สำนักงานคณะกรรมการการอุดมศึกษา. (2007) ระเบียบการคัดเลือกบุคคลเข้าศึกษาในสถาบันอุดมศึกษา สำนักงานคณะกรรมการการอุดมศึกษา ปีการศึกษา 2550. [教育省高等教育委員会 (2007) 『仏暦 2550 教育年度高等教育委員会高等教育機関入学者選抜規則』]

สำนักงานคณะกรรมการการอุดมศึกษา กระทรวงศึกษาธิการ. (2007) สถาบันอุดมศึกษาในสังกัด. [タイ教育省高等教育委員会 (2007) 「管轄高等教育機関」] <http://www.mua.go.th/data_main/university_1.xls>

สำนักทดสอบกลาง สำนักงานคณะกรรมการการอุดมศึกษา. (2006) การรับบุคคลเข้าศึกษาในสถาบันอุดมศึกษาในระบบกลาง. เอกสารประกอบการแนะแนวการรับนิสิตนักศึกษาในสถาบันอุดมศึกษาประจำปีการศึกษา 2549 [教育省高等教育委員会中央試験局 (2006) 『中央方式高等教育機関入学者受入制度』]

สำนักทดสอบกลาง สำนักงานคณะกรรมการการอุดมศึกษา. ข้อมูลการคัดเลือกบุคคลเข้าศึกษาในสถาบันอุดมศึกษา สำนักงานคณะกรรมการการอุดมศึกษา. ปี 2546, 2547, 2548 [教育省高等教育委員会中央試験局『高等教育委員会高等教育機関入学者選抜データ』2003-2005 年]

อุทุมพร จามรมาน. (2005) สรุปเกณฑ์ในการรับเข้าศึกษาในมหาวิทยาลัยของรัฐ ในระบบกลาง. เอกสารภายในกระทรวงศึกษาธิการ [ウトウムポー・チャーモン・มาร์ (2005) 「中央制国立 Univ. 入学者受入基準の要約」(タイ教育省内部資料)]